

(株)会津産直センターの挑戦!!

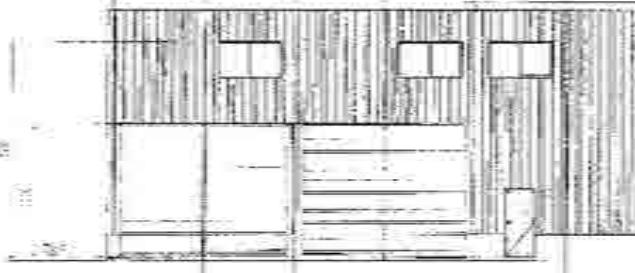


導入された汎用コンバイン
来年6月デビュー予定

平面図



立面図



農民連フラッシュ flash

まもなく米の収穫、検査が始まります

8月22日二本松市で農産物検査員の会議が行われました。福島農民連産直農業協同組合には16名の農産物検査員があり、実際に米穀の試料を見て鑑定を行い、農産物検査制度を学んで、秋からの米の検査に備えます。



農業課題について福島県との意見交換

8月25日、福島県農政部と県内農業課題について意見交換を行いました。肥料、飼料、燃料高騰が農家経営を圧迫していることから、県独自の対策を要望しました。また、学校給食への有機米利用と無償化、国産小麦の利用、生産振興について意見交換を行いました。



水田麦・大豆産地生産性向上事業に取り組む株式会社会津産直センターにお話をうかがいました。

まず、この事業を取り組むことになつた経緯をお聞きしました。

2021・12月

- ・地域農業再生協議会にて米政策、米情勢の見通しを聞き、主食用米の過剰在庫について懸念を抱く

- ・取締役会にて水田転作取組について議論

- ・主食用米の見通しが厳しいため、非主食用米への取り組み強化を確認

2022・1月

- ・喜多方市より本事業に関わる案内通知があり、説明会に参加

- ・臨時取締役会開催。本事業への取組みの可否について議論↓了承

- ・本事業への取組み意向を表明、喜多方市へ通知

2022・2月

- ・穀類乾燥調製施設について業者との打ち合わせおよび機械選定作業に入る

この役員だから事業を進めることができた

この事業の対象圃場は水田で、産地が「麦・大豆生産性向上計画」を作成した上で麦または大豆を転作作物として栽培します（会津

産直センターは小麦の栽培を計画しています）。初年度は6名、3haでスタートし、3年後には10名、21haを目標としています。産地の団地化の推進に取り組む、団地化と生産性向上について成果目標を定める等の要件があり、その要件を満たすために産直センターが必要な農業機械や乾燥調製施設等を導入します。導入する機械、施設は次の通りです。

溝掘機	1台
播種機	1台
コンバイン	1台
乾燥調製施設	1式



乾燥調製施設建設予定地 井戸掘りが進行中

く取り組みを続けられるよう、行政や農林事務所と連携を取り進めていきたいと考えています。

価格については消費者の理解も大事である

会津地方の小麦の平均反収は126kgです。市場価格は3000円／1俵(60kg)ほどで収穫量が平均を超えたとしても小麦の価格は1万円にもなりません。この価格では到底再生産はできず水田活用直接支払交付金や畠作物の直接支払交付金（ゲタ対策）が頼みの綱となります

が、その水田活用直接支払交付金も5年間水張り（水稻作付け）が行われない農地は対象外になる

など改悪されようとしています。また、輸入に頼っている小麦で得られたのは取締役の多くが若く、自身が地域の担い手であるといふことが大きい要因です。現在は60代70代で専業という大農家が多く、将来、その農家が離農することになります。会津は米処ですが、畑作にも取組み、将来的に若い農家たちの受け皿になる事業にしたいという思いが共感を得て、承認されました。

学校給食への導入もと欲張りましたが、海外ではプレハーベスト（収穫前に除草剤を散布し早く枯れさせること）の問題も取り上げられ残留農薬が心配される中、会津が栽培する「福島県産小麦」におおいに期待をしたいと思いま

す。

いところですが、まずは栽培技術を確立し、安定的な収穫量を確保してから、とのことでした。

希望を持って取り組んでいるよ！

お話を聞けば聞くほど後ろ向きな考えになってしまいそうですが、つながりのあるお米屋さんから、農業機械業者を紹介していただき、商談も始まっています。会津産直センターの皆さんからは「希望を持って取り組んでいるよ」と明るい未来を想像させる言葉が聞かれました。頗もしい限りです。農家の将来のため、地域の農業を守るために動き出した会津産直センターの取り組みを今後も追いかけていきたいと思います。

太陽光発電用地をお貸しいただける方を募集しています。

- ①福島市
- ②約2000～3000m²の遊休地
- ③日当たりがよい
- ④宅地、雑種地、林地、原野、農地などの地目の土地

ご連絡いただければ、現地を確認させていただきます。



【連絡先】

福島農民連産直農業協同組合 担当：佐々木健洋
TEL 024-546-7229 fax 024-546-8804
メールアドレス：stake@vmail.plala.or.jp